社会科指導案　　【京都府】

学校名
指導者名

1　日時・場所
2　学年・組
3　単元名・教材名
4　単元について

文部科学省は、「我が国の将来を担う子供たちが自国の領土を正しく理解することは極めて重要」とし、学校教育においては、「学習指導要領を踏まえ、小学校から高等学校までの各学校段階において、児童生徒の発達段階に応じ、領土に関する教育を行う」としている。従って、領土学習は小学校５年生で扱うべき内容としてすべての社会科の教科書に記載、中学校では、地理・歴史・公民のすべての分野で学ぶことになっている。本校においても、前時までの学習において、位置、歴史的な経過などの学びを重ねてきた。しかし、当事者意識をもって領土をめぐる問題をとらえている生徒は多いとは言えない。

南丹市日吉町に住む生徒たちにとって、北方領土問題は遠くの出来事であろう。しかし、どのような問題でも「ひとごと」である限り日本の将来を担う人材になれるはずがない。本授業では、ウクライナの人々の願い、現在四島に住んでいるロシア人の思い、元島民の強い願いを切り口に、「ふるさとへの思い」という共通項を見出しながら、問題を自分事として考えることができる生徒の育成をめざしたい。

5　本時の目標

・北方領土問題に関わる人々の思いを想像し、自分ができることを考えようとする。
【主体的に学ぶ態度】

6　本時の展開（2/2 時間目）

過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価 （評価の観点） 〈評価方法〉
導入	既習事項の振り返り	・ウクライナ現状を思い出す。	・ふるさとを失った人々の思いを想像させる。	
展開	・今の北方領土の様子について	・ロシアが四島を自分のものとして暮らし、開発している様子を知る一方、もうそこがロシアの人たちにとってもふるさとになっていることに気づく。		北方領土問題に関わる人々の思いを想像し、自分ができることを考えようとする。 【主体的に学ぶ態度】 〈机間指導〉

	・元島民の思いについて	どうして、元島民の一番の願いは「この問題をもっと多くの人に知ってもらいたい」というものなのでしょうか。		十分満足できると判断される状況 〇相手の考えに対して積極的に質問し、自分の考えを見つめ直そうとしている。 努力を要する状況への手立て 〇身近な問題に置き換えて考える。
		・元島民の一番の願いが、「この問題をもっと多くの人に知ってもらいたい」であることの理由を考える。 （個人）→（ペア） ・出された考えを交流する	・考えを深めるためのデータを、状況を見て示す。 ・ペアワークで交流した考えを、全体の場でいくつか共有する。	
	・自分たちができることについて	自分たちにできることは、どんなことでしょうか。		
		・元島民の願いの奥にある思いに触れ、中学生である自分たちに何ができるのか考える。 （個人）→（ペア） ・出された考えを交流する	・他校の中学生の意見を紹介することで、中学生にもできることはたくさんあることに気づかせる。	
まとめ	・本日の学びを振り返る	・本日の学びを踏まえ、感想を書く。 （個人）		

感想用紙

名前（　　）